

第2回一帯一路国際協力サミットフォーラム等への
参加について
概 要 報 告

平成31年4月22日（月）～26日（金）

富山県

1 日程

日付	日程	場所等	備考
4月22日(月) 〔1日目〕	・移動日（富山→大連→北京） ・中国南方航空大連分公司との懇談 【北京泊】	大連空港	
4月23日(火) 〔2日目〕	・古北水鎮視察 ・在中国日本国特命全権大使との懇談及び夕食会 ・とやま伝統工芸PR交流会 【北京泊】	古北水鎮 ホテルニューオー タニ長富宮・大使公 邸 ホテルニューオー タニ長富宮	観光説明会・商 談会
4月24日(水) 〔3日目〕	・中国共産党対外連絡部への表敬訪問 ・中国国際放送日本語学習者向けラジオ番組 収録 ・伝統工芸PR展示会視察・激励 ・中青旅株式会社訪問 ・習近平国家主席との会談 ・中日友好協会との懇談夕食会 ・現地レストランでの本県PR 【北京泊】	中国共産党対外連絡部 ホテルニューオー タニ長富宮 上座家具798店 中青旅株式会社 人民大会堂 好苑建国ホテル 老乾杯北京店	
4月25日(木) 〔4日目〕	・中国民用航空局への表敬訪問 ・第2回一帯一路国際協力サミットフォー ラムでの意見発表 ・富山ファン倶楽部及び北京富山県人会と の夕食会 【北京泊】	中国民用航空局 北京国家会議セン ター ホテルニューオー タニ長富宮	
4月26日(金) 〔5日目〕	・移動日（北京→名古屋）		

2 参加者名簿

(1) 県関係者

	役職名	氏名
1	富山県知事	石井 隆一
2	総合政策局長	蔵堀 祐一
3	生活環境文化部長	須河 弘美
4	総合政策局国際課長	久崎 みのり
5	観光・交通振興局観光振興室課長	山下 章子
6	観光・交通振興室総合交通政策室航空政策課長	吉田 徹
7	商工労働部経営支援課長	渡辺 正和
8	総合政策局秘書課主幹	武脇 仁

(2) 民間関係者

	役職名	氏名
1	シアター・オリックス実行委員会委員長	河合 隆
2	富山県酒造組合会長	榊田 隆一郎
3	高岡銅器職人	折井 宏司
4	高岡漆器職人	武蔵川 剛嗣
5	立山黒部貫光(株)営業推進部次長	佐々木 健治
6	黒部峡谷鉄道(株)営業センター所長	吉田 守
7	新湊うまいもん(株)新湊きつときと市場	小堀 寿久
8	ホテル森の風立山支配人	阿部 勝喜
9	ニュージャパントラベル代表取締役社長	松田 隆
10	(株)竹勘代表取締役社長	竹内 信善

3 活動報告

4月22日(月)

(1) 中国南方航空大連分公司との懇談

ア 日 時：平成31年4月22日(月) 13:30~14:30

イ 場 所：大連周水子国際空港内

ウ 富山県側：石井知事、蔵堀総合政策局長ほか

エ 相手方：楊濤(ヨウ トウ) 副総経理

オ 主な内容：

○楊副総経理から、最近の富山ー大連便の状況について、4月から機材が大型化し、座席数が多くなった一方で、搭乗人数が伸び悩んでいることから、引き続き、観光客を中心により多くの方に搭乗していただけるよう県からも支援いただきたい、との要請がありました。

○石井知事から、楊副総経理や顔総経理のご尽力により、富山ー大連便が昨年10月29日から週2便から週3便に増便されたことのお礼を伝えるとともに、①ここ2~3年で中国から富山県への観光客やビジネス客が増えており、県としても引き続き富山県の多彩な観光の魅力や大連便の利活用についてPRしていくこととしているが、南方航空においても、今後も大連便の利用者の掘り起こしや安定的な運航にご尽力いただきたい、②富山は東京から新幹線で2時間あまりと近く、富山で豊かで美しい自然や美味しい食を楽しみながら宿泊し、東京に行ってショッピングやエンターテイメントを楽しむといった新しい滞在方法が提案できるのではないかと考えている。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、お互いに知恵を出し合いながら、旅行商品を工夫し、より多くの旅行者に搭乗していただけるよう努めていきたい、③旅行会社に新幹線との乗継旅行商品を企画・販売してもらうようお互いに努めていきたい、とお答えしました。

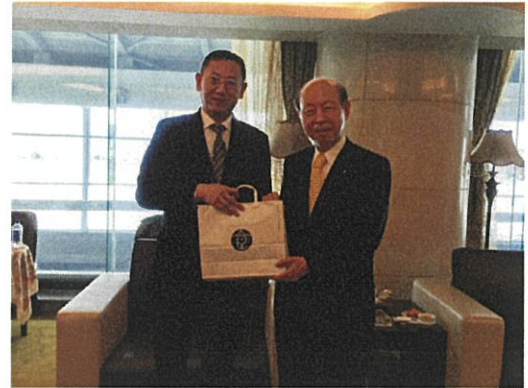
○楊副総経理からは、富山県は大都市の賑やかな雰囲気とは違い、自然豊かでリラックスできる場所だと承知しているが、中国国内ではまだ知名度が高いとは言えず、富山県もより積極的にアピールすることで、観光需要の一層の掘り起こしをお願いしたい旨の発言がありました。

○石井知事からは、①明日、北京で観光説明会を開いて、中国の旅行者に本県の観光を積極的にPRすることになっていること、②4月25日の一帯一路国際協力サミットフォーラム分科会において、これまでの富山県と遼寧省との交流や、富山ー大連便の増便に触れ、地方での日中双方の努力による交流の拡大の重要性をアピールすること、③週3便運航の安定化に向けて今後も南方航空はじめ遼寧省などとも協力し、サポートしていきたいと述べました。

○楊副総経理からは、石井知事がこれまでも富山ー大連便の維持・安定化に努力していただいたことに感謝の意が伝えられ、今後も双方協力しながら、よりよい成果を得られるよう努めていく旨の発言がありました。



懇談の様子（石井知事と楊副総経理）



記念品の贈呈

4月23日（火）

（1）古北水鎮視察

ア 日 時：平成31年4月23日（火）10：30～11：30

イ 場 所：古北水鎮（北京市）

ウ 富山県側：石井知事、河合シアター・オリンピックス2019実行委員会委員長、須河生活環境文化部長

エ 相手方：鈴木忠志シアター・オリンピックス芸術監督ほか

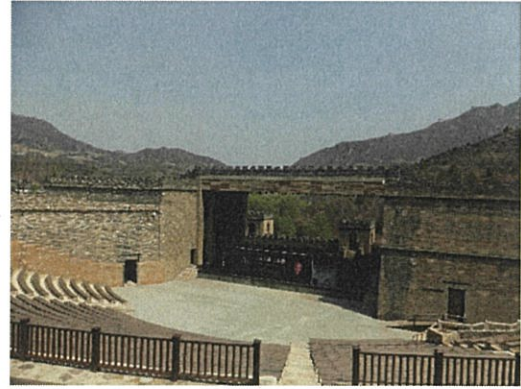
オ 主な内容：

○今年夏、利賀・黒部で開催予定のシアター・オリンピックスに向けて、芸術監督である鈴木忠志氏と意見交換を行い、また、その実施面で参考とするため、鈴木先生が中国での拠点としている北京郊外にある古北水鎮を訪問しました。古北水鎮は北京中心市街地から北東へ120km行ったところにあります。ほとんど何もなかった万里の長城の麓を2010年から開発し始め、2014年にオープンしたとのことです。9km²の広大な敷地内に中国の古い街並みを再現するとともに、万里の長城へのロープウェイの発着場にもなっており、昨年の観光客数が延べ200万人となる一大テーマパークとなっています。

○鈴木先生は中国においても演劇をはじめ文化界などから高い評価を受けておられることから、鈴木先生の助言のもと、古北水鎮の一角に悠久の歴史を感じさせる万里の長城を借景とし、2千人の観客を収容できるギリシャのヘロデオン音楽堂を想起させる大規模な野外劇場や、さらに鈴木芸術監督用の宿舎まで整備されています。この古北水鎮を建設し運営されている陳向宏氏（建築士の資格を有する著名なデベロッパー）の構想・企画力や数年で実現した実行力に感銘を受けました。また、中国各地から参加している数十人の演劇指導者やプロの俳優を鈴木先生が指導するスズキ・メソッドによる演劇塾を視察させていただきました。参加された中国の演劇関係者が鈴木先生に深い敬意と信頼を持っておられることをひしひしと感じ、大変感動しました。



鈴木忠志氏との意見交換



野外劇場



演劇塾の稽古の様子



演劇塾の視察の様子

(2) 観光説明会・商談会

ア 日 時：平成31年4月23日(火) 13:00~15:50

イ 場 所：ホテルニューオータニ長富宮 2階「水蓮の間」

ウ 富山県側：立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)など5社

エ 相手方：中青旅など現地旅行会社6社

オ 主な内容：

○まず、JNTO北京事務所 服部所長から次のとおりご挨拶をいただきました。

・富山県単独で北京において商談会を開催されることにお祝い申し上げる。最近、北陸地方を訪れる中国人が徐々に増えてきているが、さらに、より多くの中国の方々に富山や北陸を訪れていただき、多様な日本の魅力を知っていただきたいと願っている。

・富山県は東京、大阪、名古屋からほぼ等距離にあり、東京からは北陸新幹線に乗り、2時間で行くことができる。新鮮な海の幸、ダイナミックな「雪の大谷」、黒部峡谷の大自然や世界遺産の五箇山合掌造り集落など、観光資源が豊富で、大きなポテンシャルを秘めている。今日は中国の旅行会社の皆様に富山県の魅力を存分に知っていただき、より多くのお客様が富山県を訪問することを期待している。

○続いて、在中国日本国大使館 後藤参事官から次のとおりご挨拶をいただきました。

・昨年5月の李克強総理の訪日や10月の安倍総理の訪中を通じて、日中関係は大きく改善している。

・ゴールデンルートを中心とした旅行から地方を訪問する旅行が増えている状況のなかで、できるだけ多くの中国人旅行者に日本各地を訪問し、その魅力を知ってほしいと考えている。こうしたなか、富山県が北京において観光商談会を開催されることは、大きな意義がある。旅行会社、富山県の双方にとってメリットがあり、旅行会社には積極的に商品造成をしていただきたい。

○次に、現地のプレゼンターから観光説明を行い、①立山黒部アルペンルート、黒部峡谷、五箇山合掌造り集落に加え、富岩運河環水公園や富山県美術館、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾など、四季を通じた魅力的な観光資源、②ミシュランでも高い評価を受けている富山ならではの食の魅力、③多彩な温泉地や祭り、観光列車といった体験コンテンツなど、富山県の魅力について説明を行いました。

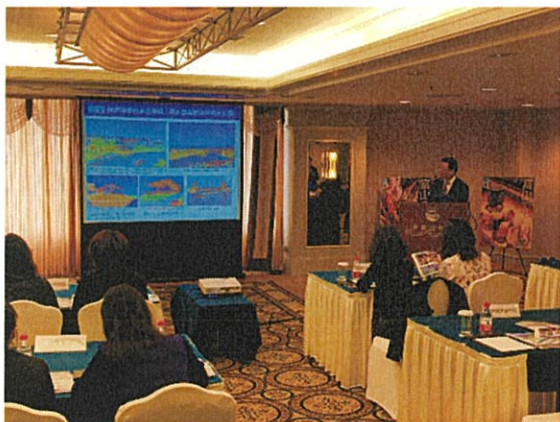
○その後、県内の観光事業者と現地旅行会社との商談会が開催され、各ブースにおいて非常に熱心な商談が繰り広げられました。現在、企画している旅行商品において、富山県美術館をルートに入れたいといった具体的な商品造成に関する話もありました。

○司会が交代をアナウンスしても商談が終わらないブースもあり、これほど熱心で積極的な商談会はなかなか無いとの声も聞かれました。

○そうした熱気のなか、石井知事が商談会を視察し、挨拶を行いました。熱心な商談の様子を見た石井知事が、その場で「富山をまだ訪れたことのない旅行会社の方はおられますか」と訊ねたところ、遠慮がちに数名の手があがりました。そこで、「富山に行ったことのない旅行会社の方を先着順で3名、富山視察に招待しますので、積極的に手をあげてください。」と発言すると「ワー」と歓声が上がリ、手を挙げる人はさらに増え、

熱気は最高潮となりました。富山を訪れることになった旅行会社の担当者からは、「アルペンルートや黒部峡谷に行きたい」「富山の海鮮を食べてみたい」など、富山県の魅力体験への期待の声が続々と上がりました。

○今回の商談会において、中国の旅行会社からは、富山県の観光資源の知名度の向上や、富裕層など旅慣れた旅行者向けの滞在型観光などを提案してほしいとの声があったことから、今後こうした要望も踏まえ、中国からの観光誘客に取り組んでまいります。



観光説明会



商談会



知事挨拶①



知事挨拶②

(3) 在中国日本国特命全権大使との懇談

ア 日 時：平成31年4月23日(火) 15:35～15:55

イ 場 所：ホテルニューオータニ長富宮、在中国日本国大使館大使公邸

ウ 富山県側：石井知事、蔵堀総合政策局長ほか

エ 相手方：横井裕在中国日本国特命全権大使、水谷参事官、後藤参事官ほか

オ 主な内容：

○冒頭、横井大使から、一帯一路国際協力サミットフォーラムの日本国代表団(団長：二階俊博自由民主党幹事長)に石井知事が加わったことについて大変意義のあることとの発言がありました。また、地方間交流は日中関係の改善の重要な要素でもあることから、昨年8月の日中平和友好条約締結40周年を記念した知事の遼寧省訪問に続いての今回の訪中は、今後の日中間の地方交流、民間交流の活性化にとっても大変喜ばしいことである旨の発言がありました。

○石井知事からは、①昨年8月、遼寧省を友好代表団の団長として訪れた際、横井大使にご多忙のなか遼寧省瀋陽に駆けつけていただいたことに大変感謝していること、②今年は遼寧省と友好提携35周年の記念の年であり遼寧省側から代表団を受け入れる予定であること、③今回、中国人民対外友好協会からの要請に基づき、第2回一帯一路国際協力サミットフォーラム分科会に参加することになったこと、④当初の予定から3か月前倒しして、昨年10月から大連便が増便となったこと、⑤「富山—上海便」が好調であるが上海の発着枠に一定の制限があるため増便が難しいこと、そこで一帯一路の一環として日中の交流をさらに活発にするため、また、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、その発着枠の制限を緩和することが望ましいことをフォーラムでアピールしたいと考えていること、⑥今年の夏に富山県(利賀・黒部)において、第9回シアター・オリンピックスを開催すること、⑦北陸新幹線の開業効果により、観光客等の増加だけではなく近年首都圏からの移住者が増加していることなどが紹介されました。

○横井大使からは、①中国の訪日旅行客の動向を見るとまだまだ需要が増え、「富山—大連便」、「富山—上海便」の需要も高まることが予想されること、②3年後の2020年の冬季オリンピックが北京で開催されることもあり、中国から日本へのスキー客が増えていること、③富山から直行便のある大連市は、一時経済が低迷していたが最近回復しており、日本との交流を強化していること、また、日本語人材も多く離職率も低い地域でもあるため、日本にとっても魅力のある地域であることなどが紹介されました。

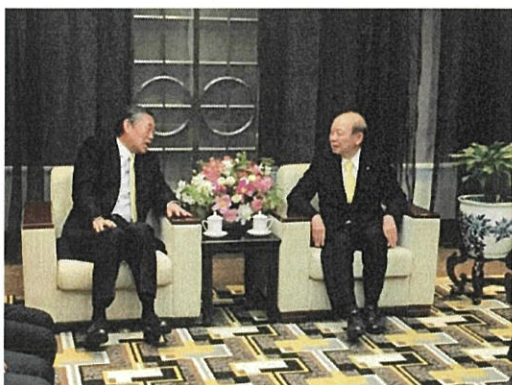
○最後に、石井知事から今後とも富山県と中国との交流促進や中国での富山県のPRなどについて横井大使をはじめ大使館各位のお力添えをいただきたい旨を要請しました。

○また、同日夕刻に大使公邸において県内民間事業者も交えた夕食会が開催されました。

○冒頭、横井大使からは、①来月で大使に就任して丸3年になり、ようやく日中関係が改善されてきた時期に、石井知事をはじめとする富山県関係者を迎えることができ嬉しく思うこと、②今回の訪中で知事はじめ富山県が大きな成果を挙げられることを期待すること、などの発言がありました。

○これに対し、石井知事からは、一帯一路国際協力サミットフォーラムの開催など大変忙しいなか、横井大使に「とやま伝統工芸PR交流会」に出席いただいたことに対し謝意を表するとともに、日中の外交の重要な職責を富山県出身者が担い活躍されていることは大変嬉しく誇らしいことなどをお話しました。

○また、大使館の皆様から、中国や世界の経済情勢等についてのご説明をいただくとともに、富山ならではの様々な話題で盛り上がりました。



横井大使との懇談の様子



大使館公邸での記念撮影

(4) とやま伝統工芸PR交流会

ア 日 時：平成 31 年 4 月 23 日（火）16:00～18:00

イ 場 所：ホテルニューオータニ長富宮

ウ 日 本 側：石井知事、横井裕在中国日本国特命全権大使、梶田隆一郎富山県酒造組合会長、堂ノ上武夫ジェトロ北京事務所長、折井宏司(有)モメンタムファクトリー代表取締役社長、武蔵川剛嗣氏((有)武蔵川工房)、竹内信善(株)竹勘代表取締役社長 等

エ 相 手 側：^{ていかいは}程海波中日友好協会副秘書長、^{きょしょう}許 湘中国中小商業協会副会長、^{わんちゃおいん}王超鷹氏、^{おうしょう}王 翔上座家具会長、バイヤー、メディア、旅行会社、政府関係機関等 約 120 名

オ 主な内容：

○冒頭に石井知事から、近年、①富山県の伝統工芸品のPR展示会をニューヨーク、ミラノ、パリなどで行い、大変高い評価をいただけてきたこと、昨年瀋陽でも好評であったことを受け、今般、いよいよ首都・北京において富山県の伝統工芸品の魅力をPRできることを大変うれしく思っていること、②去る 21 日（日）から上座家具北京 798 店で行っている展示会についても相当大きな反響があることをご紹介したうえで、今回は高岡銅器の折井宏司氏、高岡漆器の武蔵川剛嗣氏による実演をご覧いただき、富山の美味しい食・地酒も存分に楽しんでほしい旨の挨拶を行いました。また、当日、越中和紙の川原隆邦氏が予定外で駆け付けられたので、①同氏が一昨年 11 月に開催した国際北陸工芸サミットで最優秀賞を受賞され、②その後高い評価を受け、昨年 12 月パリの装

飾美術館の重要な場所でその作品が展示されたことなどをご紹介します。

- 来賓の横井大使からは、交流会の成功の祈念に加え、①昨年、日中平和友好条約締結 40 周年の節目で、日中関係は完全に正常に戻ったと言われていること、②昨年 5 月に李克強首相が日本を公式訪問した際の「日中知事省長フォーラム」で石井知事からも発言がなされたように、日中関係を根底から支えているのは両国の人と人とのつながり、富山県をはじめ日中両国の地方の絶えない交流であること、③本年は日中両国ともに大変重要な節目の年で、日本は「令和」の時代が始まり、中国は 10 月に建国 70 周年を迎える重要な年であること、④富山からは中国への直行便が大連と上海の 2 つがあり、富山県を訪れる際はぜひこれらを使っていただきたいこと等の祝辞をいただきました。
- 次に、鏡開きを行い、程海波中日友好協会副秘書長から、乾杯の発声に併せ、石井知事をはじめ富山県と中国の交流の成果への期待と感謝に加え、日中友好に生涯を捧げられた松村謙三先生のご尽力や富山県出身の横井大使に敬意を表する旨のご挨拶をいただきました。
- 引き続き、梶田隆一郎富山県酒造組合会長から富山県の美味しい地酒を育む良質で豊富な水や風土、酒造りの特徴、蔵元の実直な酒造りなどの魅力について PR いただいたところ、16 蔵元からなる地酒コーナーは長蛇の列ができる人気ぶりとなりました。
- 伝統工芸の実演では、①まず高岡銅器の折井氏が、糠を塗った薄い銅板の表面を焼き付け、薬品との化学反応で“オリーブブルー”と呼ぶコバルトブルーに変化させる着色技法を披露し、現在はクラフトから建築材料まで手掛けているが、銅は金属で唯一赤や青などいろいろな色に変化する大変面白い素材であり、今後は銅板を張り付けた服などファッションにも力を入れていきたいこと等の説明がありました。②次に高岡漆器の武蔵川氏は、繊細な螺鈿細工を施す製作工程等を紹介するスクリーンを背景に、ガラスの器や酒器、アクセサリなどいろいろな商品を手掛けているが、伝統技術を守りながら現代に合うようデザインをアレンジして発展させていくことが大事で、様々な分野に挑戦することを心掛けていることなどをお話しいただきました。多くの方がお二人の実演や説明を間近で熱心に見つめるなど優れた技術や作品の美しさに魅せられ、終了後も閉会まですずっと製作への思い等について質問している姿も見られました。
- 次に、中国人の伝統工芸士であり、平成 29 年に文化庁と北陸三県共催で本県で開催した「国際北陸工芸サミット」において、海外選考委員を務めていただいた王超鷹氏からゲストスピーチをいただきました。王氏は、①ものづくりの中でも、温度や風などを考慮し微妙な変化を表現する伝統工芸品の技法はまさに神技ともいえ、工業化の時代だが手作りにより一点ものの美しい作品をつくることに工芸士の価値があり、職人の忍耐力、美しいものを作りたいという気持ちを理解してほしいこと、②富山県の良さは伝統工芸を守っているだけでなくさらにこれから先どう進むかを真剣に考えており、その一端が「北陸工芸サミット」の開催であり、職人が評価され活躍することで工芸が世界で注目され世界各国の工芸士をいろいろな面で支援することになっていること、③最も評価すべきことは、人間は自分の力で極限を表現しようとするのが財産となること、工芸や酒、鱒寿司、全て手作りであり、同じく高く評価したいとの熱い激励スピーチをいただ

きました。

○歓談では、(株)竹勘代表取締役社長の竹内信善氏が製作実演された鱒寿司も振る舞われ、富山ならではの味覚に舌鼓を打っていただき、大変美味しいと評判でした。会場に設けた伝統工芸品の展示や立山黒部や富山湾をドローンで撮影した美しい迫力ある映像も交えた観光PRの特設コーナーでは、多くの方が興味深そうに写真を撮ったり質問したりしながら、参加者同士が工芸の魅力や富山県と中国の最近の話題などに花を咲かせており、ぜひ富山県に行ってみたいとのお話をたくさんいただきました。また、日本の商工会議所にあたる中国中小商業企業協会からは中小企業の国際会議への富山県の参加とできれば石井知事の出席を要請されるなど、交流会は大いに盛り上がりました。



石井知事 挨拶



横井裕大使 来賓挨拶



鏡割、程海波中日友好協会副秘書長 乾杯



榎田隆一郎会長 地酒PR



折井宏司氏 着色実演



武蔵川剛嗣氏 説明



王超鷹氏 ゲストスピーチ



歓談



伝統工芸品コーナー



折井宏司氏実演コーナー



武蔵川剛嗣氏実演コーナー



竹内信善氏鱒寿司試食コーナー

4月24日（水）

（1） 中国共産党中央対外連絡部表敬訪問

ア 日 時：平成31年4月24日（水）9：05～9：45

イ 場 所：中国共産党中央対外連絡部

ウ 富山県側：石井知事、蔵堀総合政策局長ほか6名

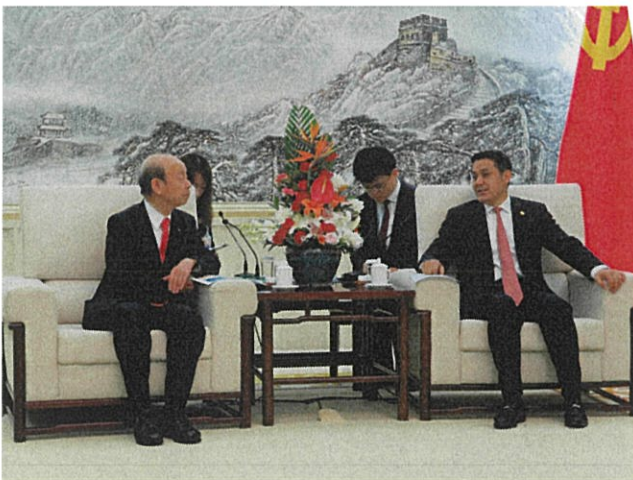
中日友好協会都市経済部副部長王磊副部長（同席）

エ 相手方：王亜軍（おうあぐん）副局長ほか

オ 主な内容：

- 冒頭、王亜軍副局長より、富山県訪問団の訪中、そして第2回一帯一路国際協力サミットフォーラムへの参加に関する歓迎の意が表されるとともに、富山県は中国との交流ならびに中国共産党中央対外連絡部を重視しておられることは大変喜ばしいことであるとの発言がありました。
- 石井知事からは、これまで「富山－大連便」の拡充や「富山－上海便」の開設にお力添えをいただいたことに対する謝意を述べるとともに、ここ2、3年で日中関係が改善に転じていることは喜ばしいことである旨を伝達した。加えて、①日本と中国との交流を一層活性化させるためには、羽田や関空だけではなく、上海や北京と富山空港をはじめとする日本の地方空港への航空路線の充実が重要であること、②航空路線の拡充のためには、上海や北京の航空便の上限設定を緩和する必要があること、③かつて「富山－上海便」は週3便であったが現在週2便に止まっており、近年は利用率が急速に高まり、航空会社による売れるチケットが無い状態であるとのことであるが、発着枠の上限設定があるため増便が困難だと伺っていること、④我が国は来年の2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、訪日観光客の受入目標を2千万人から4千万人へと倍増させていること、⑤二階俊博自由民主党幹事長にも交流拡大のためにも上海と北京の空港の航空便の上限制限を緩和すべき旨を一帯一路フォーラムにおいて提案させていただきたいとご相談したところ、ご了解をいただいたこと、⑥ご理解がいただければ便数上限設定の緩和に

ついて中国共産党対外連絡部からもお力添えをお願いしたいこと、などをお話しました。
 ○王亜軍副局長からは、日中国交正常化に尽力した松村謙三先生のふるさが富山県であり、また横井大使も富山県出身であることについて言及されるとともに、①地方間協力は日中関係にとって重要であり、日中間の関係の改善を図るうえで重要であり、中国政府としても重視していること、②航空路線についても対外連絡部としても努力すること、③富山県も中国国内での観光PR等を積極的に行うとともに、富山県の方々にも中国に訪問することを推奨いただきたいこと、④今回の富山県訪問団の訪中が実り多いものとなるように祈念していること、などのお話がありました。



王亜軍副局長との会談



王亜軍副局長との記念撮影

(2) 中国国際放送日本語学習向けラジオ番組収録

ア 日 時：平成 31 年 4 月 24 日（水）10：30～11：15

イ 場 所：ホテルニューオータニ長富宮 百合の間

ウ 富山県側：石井知事

エ 相手方：王小燕（おうしょうえん）中国国際放送アナウンサー

オ 主な内容：

○中国国際放送のラジオ番組「日本の自治体職員在中國 加油！」の収録が行われ、石井知事が取材を受けました。

○知事からは、今回の北京訪問の目的の説明や富山県の魅力について、下記のとおり説明を行いました。

- ・富山県は、製造業が盛んであり、多くの富山県企業が中国に進出し、300 近い事業所が展開していること
- ・富山県の医薬品産業は、長い歴史と伝統を有し、全国一、二の医薬品生産拠点を形成していること
- ・海の幸、野の幸、山の幸に恵まれており、特に、富山湾は魚の宝庫で「天然の生け簀」と呼ばれており、様々な美味しい魚を味わうことができること
- ・農作物では、富山米新品種「富富富」が昨年秋に本格デビューし、消費者から高い評価

を受けていること

- ・今般は富山 - 大連便を利用し大連経由で北京に入ったが、上海便もあり、大連や上海を経由して中国各地に移動できるので便利であること
 - ・昨年8月に遼寧省瀋陽で伝統工芸品をはじめとする県産品のセミナーを開催したところ、大変好評だったこともあり、北京においても「とやま伝統工芸PR交流会」及び「とやま伝統工芸PR展示会 in 北京」を開催することにしたこと
 - ・日露共同開催によるシアター・オリンピックスが今年、開催されることとなり、日本では8月から9月にかけて富山県の南砺市利賀村と黒部市で開催されること
 - ・富山県美術館はアートとデザインをつなぐ美術館として、一昨年夏、全面開館したが、これまで200万人を超える方々にご来館いただいております、全国的にも注目されていること
- 最後に、知事から①一帯一路国際協力サミットフォーラムでの地方協力分科会において「富山県と中国との経済・文化・観光交流」について発表を行い、今後の地域間交流の拡大等について、意見交換をしたいこと、②上海や北京の空港には日中政府間での取り決めで便数の上限があるが、地域間交流の発展のためにも、制限の緩和など航空路線の拡充を呼びかけたいこと、などが述べられました。



収録風景



石井知事と王小燕アナウンサー

(3) とやま伝統工芸PR展示会 in 北京 視察・激励

ア 日 時：平成31年4月24日（水）12:20～12:35

イ 場 所：上座家具798店 展示スペース

ウ 日 本 側：石井知事、蔵堀総合政策局長、王超鷹氏、折井宏司(有)モメンタムファクトリー代表取締役社長、武蔵川剛嗣氏（(有)武蔵川工房）、川原隆邦氏、県随員 等

エ 相 手 側：王翔^{おうしょう}上座家具会長、許憲^{きょけん}副社長

オ 主な内容：

○本県ではこれまでニューヨーク、ミラノ、パリなどで伝統工芸PR展示会等を開催し高い評価をいただけたところですが、昨年、瀋陽で開催した「県産品セミナー・フェア」も好評だったことから、このたび、いよいよ首都・北京で「とやま伝統工芸PR展示会」を開催することとしたものです。

○北京を代表するアートと若者文化の発信地「北京798芸術区」にある上座家具において、21日（日）から25日（木）までの5日間にわたり、富山県の伝統工芸品特設コーナー

を1階、2階の2フロアに設置し、高岡銅器や高岡漆器、越中和紙など、富山県を代表する優れた伝統工芸品7産地120点を展示するとともに、交流会でも匠の技を披露いただいた高岡銅器 折井氏、高岡漆器 武蔵川氏が実演や来場者向けのワークショップを催されたほか、予定外で参加された川原氏が来場者に和紙の作品について説明を行われました。

○開催初日の日曜日には約500名の方が訪れるなど関心の高さが伺え、若者や美大生、親子連れのほか、デザイナーや若手起業家を中心に、全体で、これまでのニューヨークやパリ等での展示会を大きく上回る約800名の方に来場いただきました。皆、説明に熱心に耳を傾けながら作品を手にとってじっくり眺めたり写真を撮ったりし、「デザインがシンプルで美しい、とても気に入った」、「どこで買えるのか、すぐ買いたい」、「初めて見たが今からワークショップに参加できるのか」と、早速インターネットの販売サイトへアクセスされる様子や、そのままワークショップへの参加申込みをされる方が数多く見られました。

○24日(水)は、石井知事も会場視察と職人の激励に訪れ、王翔上座家具会長、許憲副社長に店舗をご案内いただきました。王会長からは、①「上座家具798店」は、芸術家のアトリエや住居、中国をはじめ外国から進出したギャラリー等が数多くあり、若者が集まる注目の北京798芸術区内に立地しており、②中国では近年、日本の高級家具の需要が非常に高く、柳宗理、深沢直人、奥山清行といった日本を代表する工業デザイナーの椅子の取扱いのほか、中国で人気が高まっている和室に合う室内空間を提案している、③宇治抹茶のカフェも店舗に併設しており若者の人気スポットとなっている、④デザイン展等も定期的を開催し、日本の工芸品を家具と一緒に展示することで、日本の文化や工芸、デザインの魅力を発信している、⑤上海店では既に富山県の工芸品を扱っているが、今回の展示会が大好評だったので北京店、深セン店でも富山県の工芸品を扱いたい、展示会中、売上も増え感謝している、と大変心強いお話をいただきました。当日は王超鷹氏も視察されたほか、北京電視台の姚^{よう}番組制作部長が取材に訪れ、ご自身でも作品を気に入って購入したいとカタログを持ち帰られたとのことでした。

○今回の展示会では、優れた職人技で作られ技術やデザイン性のある本県の伝統工芸品への評価、関心がニューヨーク、ミラノ、パリなどと同様に高く、漆塗、螺鈿細工の品のある美しさに魅力を感じる若い女性などが多く、来場者へのアンケートでは、「デザインが本当に美しい」、「富山県の伝統工芸の歴史、文化が気に入り、今度、富山県を訪れたい」、「すばらしいイベント、もっと回数を増やしてほしい」、「もう少し大きな規模で開催してほしい」などたくさんのご意見をいただきました。中国も本県の工芸品の販路として大いに可能性のある国であると感じた次第です。



上座家具



王翔会長、許憲副社長と



展示会の様子（1階）



展示会の様子（2階）



折井宏司氏の着色コースターづくり実演・ワークショップ





武蔵川剛嗣氏の螺鈿箸づくり実演・ワークショップ



視察・懇談

王超鷹氏、川原隆邦氏と

(4) 中青旅株式会社訪問

ア 日 時：平成31年4月24日（水）13：15～13：50

イ 場 所：中青旅株式会社

ウ 富山県側：石井知事、松田ニュージャパントラベル社長、蔵堀局長

エ 相手方：高志権（こう しけん）副総裁 関旭（せき きょく）日本支社長

オ 主な内容：

○まず、高志権副総裁から、次のとおりご挨拶をいただきました。

- ・2007年に富山県を訪問したことがあり、今回、石井知事の北京訪問にあわせて、中青旅にもお越しいただいたことをうれしく思う。
- ・この10数年中中青旅も業務の拡大やブランド化を進め、大きく発展した。富山県の状況も大きく変化していると思うので、観光分野も含め広範な連携ができると嬉しい。

○次に、石井知事から、次のとおりご挨拶を行いました。

- ・高副総裁には、富山へご訪問いただいた際のほか、北京でも何度もお会いさせていただいているが、益々重要なお立場になられ大変喜ばしく思っている。今回は、「一帯一

路国際協力サミットフォーラム」に参加するため北京を訪れたが、この機会に、高副総裁をはじめ、中青旅の皆さんにお会いでき、有難く思っている。

- ・ 昨年は、日中平和友好条約40周年の節目の年で、日中友好の機運の高まりとともに2018年の訪日中国人観光客数は838万人となっているが、富山県内でも昨年の中国人延べ宿泊者数は3万人を超えて2年前に比べて5割増しとなり、嬉しく思っている。
- ・ 富山県には世界的な山岳景観を誇る立山黒部アルペンルートや黒部峡谷といった雄大な自然、世界遺産の五箇山合掌造り集落をはじめとする歴史・文化があり、新鮮で美味しい魚やお酒などの食も魅力がある。

○続けて、パワーポイントの資料をお見せしながら、富山県のPRを行いました。

- ・ ここ数年の大きな変化として、①北陸新幹線が開業したこと、②大連便が昨年10月から週3便となったこと、③上海便は週2便であるが、利用率が急速に高まっていること。
- ・ 明日発表を行う「一帯一路国際協力サミットフォーラム」分科会においても、国境を越えて文化・経済・観光の交流を拡大するためには、まずは航空路線拡充が重要であることを訴える予定であり、その一例として富山ー上海便の増便のためにも必要な上海や北京の空港の発着枠数の制限緩和を提案することとしている。
- ・ 富山県には、四季それぞれの魅力があり、富岩運河環水公園のクルーズは東京からのお客様が多く訪れ、雪の景色が素晴らしい「庄川遊覧船」は台湾など外国人観光客が増えてきており、また一昨年8月に全面開館した富山県美術館の来館者数は延べ200万人を超えている。
- ・ 食の魅力については、ミシュランで北陸トップの評価を受けた「山崎」や「Levo」があるほか、富山湾鮎が人気で、東京や外国からも多くのお客様が食を楽しみに来訪されている。
- ・ 「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾では、ヨットレースや湾岸サイクリングなども人気であり、10月には富山県で湾クラブ世界総会が開催される予定となっている。
- ・ このように近年、富山県の観光の魅力は大きく変化し充実しており、またアクセスも格段に良くなっている。富山県においても努力するが、ぜひ中青旅においても知恵を出していただき、新しい旅行商品をたくさん企画し、送客いただけると有難い。

○高志権副総裁からは、次のとおり積極的なお話をいただきました。

- ・ 富山の観光資源の説明を受け、ぜひ富山に行きたくなった。富山県の観光資源は魅力的であり、中国からの観光客を獲得するには、今がちょうどいい機会だと思う。
- ・ 中国人観光客の消費傾向は変化してきており、ただ見るだけの観光から、ゆっくり滞在することがトレンドになっており、時宜を捉えている。
- ・ 石井知事の航空路線増便の取組みはありがたい。今年の9月には、北京に新しい空港ができるので、将来的には国際路線を充実させるチャンスもあるのではないかと。
- ・ 北陸新幹線も有望であり、ジャパンレールパスは、中国で中青旅が1番多く取り扱っ

ており、ぜひ富山県と連携していきたい。

○最後に、石井知事から、今後の中青旅との連携協力についてあらためて確認させていただき、終始なごやかで前向きな雰囲気での会談となりました。



会談



石井知事と高志権副総裁

(5) 日本国代表团と習近平国家主席との会談

ア 日 時：平成31年4月24日(水) 15:00~17:30

イ 場 所：人民大会堂

ウ 日本国側：二階俊博自由民主党幹事長(日本国代表团団長)、中西宏明経団連会長、林幹雄自民党幹事長代理(前経済産業大臣)、望月義雄衆議院議員(元環境大臣)、稲田朋美衆議院議員(元防衛大臣)、石井隆一富山県知事、三日月大造滋賀県知事、尾崎正直高知県知事など日本国代表团及び横井裕在中國日本国特命全権大使(11人)

エ 相手方：習近平(しゅう きんぺい) 国家主席、丁 薛祥(てい せつしょう) 中央弁公庁主任、楊 潔篪(よう けつち) 政治局員・中央外事工作委員会弁公室主任、王毅(おう き) 国務委員兼外交部長、何立峰(か りっぽう) 国家発展改革委員会主任、孔鉉佑(こう げんゆう) 外交部副部長(次期駐日大使) ほか(9人)

オ 主な内容：

- 二階俊博自由民主党幹事長は、安倍首相の特使として「一帯一路」国際フォーラムに参加するため北京を訪問され、習近平国家主席と会談されました。
- 幸いにも、二階幹事長を団長とする日本国代表团の一員として、習主席との会談の場に同席させていただくことができ、誠にありがたく存じました。日本側からは、中西宏明経団連会長や自民党幹部をはじめ11名が同席しました。
- 会談は人民大会堂において、同時通訳により予定の15分を越えて約30分余り行われました。冒頭、二階幹事長が安倍首相の親書を手渡し、G20首脳会議にあわせた習主席の来日を改めて招請したところ、習主席は「出席して安倍晋三首相と会うのを楽しみにしている」と述べられました。
- さらに、習主席からは「『一帯一路』の理念は中国の経済発展を世界各国・各地域に結びつけ、世界各地の可能性を活かし世界全体の発展につなげていこうとするもので、ビジョンからプランに、さらに実行の段階に入りつつある。自分の国だけが発展すればよいという考えはとらない。貿易と投資の自由化を進め、多国間で協調し話し合っ物事を決めていくべき。また、日中両国関係は正常な軌道に戻った。これを深化していく必要があり、平和友好の方向で発展させたい」と話されました。
- 二階幹事長は、習主席がG20にあわせた来日を明言されたことを歓迎された上で、一帯一路の考え方を踏まえ、「日中関係の新たな時代を切り開いていきたい」として、特に青少年交流などを積極的に進める考えを表明され、習主席も賛意を表されました。また、同幹事長から、訪日の際に自民党本部で講演していただきたいとの提案もありました。
- 会談は終始なごやかな雰囲気のもとに進められ、習主席と二階幹事長との間にこれまでの積み重ねの上に立った深い信頼関係があることを実感しました。
- 会談の最後に、習近平国家主席にご挨拶し、さらに握手を交わす機会をいただき、誠に光栄に思うとともに、日中関係が改善する歴史的な場面に立ち会えたことに感激しました。



会談の様子



二階自民党幹事長と習国家主席

(6) 中日友好協会との懇談夕食会

ア 日 時：平成31年4月24日（水）18:20～20:20

イ 場 所：好苑建国ホテル（ジャングオガーデンホテル）

ウ 富山県側：石井知事、蔵堀総合政策局長ほか

エ 相手方：許金平（きょ・きんぺい）中日友好協会副会長、朱丹（しゅ・たん）
副秘書長、王磊（おう・らい）経済都市交流部副部長ほか

オ 主な内容：

○冒頭、許副会長からは、今回の「一带一路国際協力サミットフォーラム」に石井知事に参加いただいたことは大変喜ばしく、富山県関係者を熱烈に歓迎したい旨が述べられた。また、①近年は習近平国家主席と安倍総理による首脳会談がたびたび開催されるとともに、両国の総理同士の相互訪問が実現するなど、一時期と比較して日中関係は正常化しており、新たな発展の段階を迎えていること、②地方政府間交流は日中両国において、双方の国民感情の改善に役立ち、1984年の富山県と遼寧省の友好県省締結についても日中関係の改善に重要な役割を果たしていること、③1980年代後半に自分が富山県に訪問したことがあるが、美しい自然環境に恵まれ、県民も親切であったことがとても印象に残っていること、④今後の地方交流の発展のために、富山県が重要な役割を果たすことを期待していること等についてのお話がありました。

○石井知事からは、今回のフォーラムにご招待いただいた謝意を述べるとともに、①フォーラムへの参加について自由民主党の二階俊博幹事長に報告したところ、日本国代表団に加わってはどうかとのお話があり、本日、代表団の一員として人民大会堂において習近平国家主席と二階幹事長との会談に同席させていただき誠に光栄に思っていること、②今回の訪問を通じて日中関係の大きな改善を肌で直に感じる事ができたこと、③今年は遼寧省との友好提携35周年の記念の年であるとともに、昨年8月には日中平和友好条約40周年を記念して遼寧省を訪問し、唐一軍省長と新たな覚書を締結したこと、④昨年5月に札幌で開催された「第3回日中知事省長フォーラム」において、李克強國務院総理や李小林中国人民対外友好協会会長にそれぞれお会いしたこと、⑤自分の知事

としての初の海外公務は中国であり、その際に親しくお会いいただいた当時の遼寧省の書記で現在の李克強國務院総理から「両県省の交流は日中自治体交流の模範である。今後とも遼寧省はじめ中国との交流を大切にしてほしい。」とのお言葉をいただいたことを踏まえて、富山県と遼寧省の交流はもちろん、日中間の交流を充実していきたいと考えていること、⑦富山県は日中国交正常化に尽力した松村謙三先生のふるさとであり、中国との関係を重視する県民が多いこと、⑧今回のフォーラムでは、日本の地方を代表する形で意見発表を行うが、一帯一路の理念に沿って、日中間の観光や経済などの交流を更に活性化させるためには、国境を越える交通アクセスとして航空路線の拡充が重要であり、日中の政府間で設けられている上海・北京の空港の発着枠の制限の緩和について、日中間で早期に合意形成がなされる必要があることを述べたい旨をお話しました。

- その後の夕食懇談会では、石井知事から①富山県で昨年から本格デビューした富山米の「富富富」が大変好評であること、②北東アジア地域自治体連合（通称、NEAR）の環境分科委員会のコーディネート自治体を富山県が務めるなど、県としても環境保護分野にも力を入れていること、③富山県は医薬品、機械、電気・電子部品、金属など製造業が盛んで県民の所得水準も国内トップクラスで高く、また、保育所待機児童は16年連続で発生していないなど、子育て環境についても大変魅力のある場所であることなどを紹介しました。
- 前後に、富山県と遼寧省・上海市をはじめ中国の各地方のさらなる交流や上海便をはじめ航空路線の拡充について、中国人民対外友好協会や中日友好協会にご理解とご支援をいただいていることに感謝申しあげるとともに、今後なお一層のお力添えをいただけるようお願いし、なごやかに懇談を終えることができました。



中日友好協会の方々との記念撮影



石井知事と許金平副会長

(7) 現地レストランでの本県PR

ア 日 時：平成31年4月24日(水) 20:40~21:30

イ 場 所：「老乾杯」北京王府中環店

ウ 日本側：石井知事、蔵堀総合政策局長 等

エ 相手側：平出^{ひらいでそうじ} 莊^{しやう} 司^し 乾^{けん} 杯^{ぱい} グループ会長兼社長、榊田^{さかきた} 隆一郎^{りゆういちろう} 県酒造組合会長、
黄^{わう} 鴻^{こう} 吉^{きち} 乾^{けん} 杯^{ぱい} グループ中国第一地区社長、江^{かう} 宜^ぎ 展^{てん} 中国第二地区社長、釣^{てう} 吉^{きち} 範^{はん}
(株)釣屋魚問屋代表取締役社長、「老乾杯」側招待者 等 約80名

オ 主な内容：

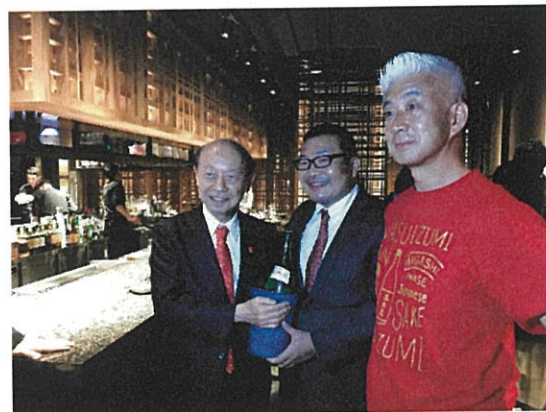
○乾杯グループは、中国及び台湾で多くの店舗を展開し、本県の代表的な地酒「満寿泉」を提供され、多くの方々にお飲みいただいていることに加え、店舗のデザインにも海越しの立山連峰など富山県の美しい風景をパネルで展示されるなど、本県の魅力を大いに発信いただいています。

○いくつかのオリジナルな料理と満寿泉を試食、試飲させていただきましたが、いずれも独特の魅力あふれる味わいで、経済の面などで大きく発展し、勢いのある北京などの企業人や富裕層の消費者に大いに評価されるのではないかと楽しみに感じました。

○平出^{ひらいでそうじ} 莊^{しやう} 司^し 乾^{けん} 杯^{ぱい} グループ会長兼社長をはじめ榊田^{さかきた} 県酒造組合会長などの方々に対し、「老乾杯」北京王府中環店^{ろうかんぱい おうふちゆうかん}の開店のお祝いと今後のご成功のご祈念、そして今後も本県産品の活用をご検討いただいていることについての感謝を申しあげるとともに、高岡の工芸品を記念品として贈呈いたしました。



老乾杯店内の様子



平出^{ひらいでそうじ} 莊^{しやう} 司^し 乾^{けん} 杯^{ぱい} グループ会長兼社長
榊田^{さかきた} 富山県酒造組合会長と

4月25日(木)

(1) 中国民用航空局への表敬訪問

ア 日 時：平成31年4月25日(木)(表敬)9:30~10:00

イ 場 所：中国民用航空局

ウ 富山県側：石井知事、蔵堀総合政策局長ほか7名(程海波中日対外人民友好協会副秘書長が同席)

エ 相手方：李健(リケン)副局長、梁楠司長、干彪副司長ほか

オ 主な内容：

- 石井知事から、富山県と遼寧省との交流の懸け橋となっている富山一大連便について、昨年10月29日からこれまでの週2便から週3便への増便が実現したことについてお礼を申しあげるとともに、富山県としては路線の利用率の向上と安定のため、日中双方の観光・ビジネス需要の一層の掘り起しなどについて、中国南方航空に協力し、必要なサポートに努めることとしており、引き続き御助言や御支援を賜りたい旨お伝えしました。
- また、富山ー上海便については、上海から富山への観光客の増加などにより、2018年度の搭乗率が8割近くに達し、中国東方航空からも需要があるので増便したいとの意向があると伺っているが、他方で「上海発着の日中間の便数制限枠が埋まっており、制限緩和がなければ増便は困難」とも伺っている。今回の訪中は、一帯一路国際協力フォーラムの地方協力分科会への参加依頼を中国対外人民友好協会から頂いたことによるが、一帯一路の理念、プランを実現していく上でも国境を越えた航空路線の積極的な拡充は必要不可欠であり、この機会に是非とも、北京及び上海の空港にかかる現行の制限を緩和するよう、日中間の合意形成をお願いしたい、と要請しました。
- これに対し、李副局長からは、中日の経済・文化等様々な分野での交流に、石井知事が熱心に取り組んでいることに感謝の意が伝えられるとともに、中日の経済・人的交流がますます発展すれば、路線の発展にもつながると考えており、ついでには、地方空港の活用と北京及び上海の空港に係る制限の緩和について、日本側の交渉の窓口である国土交通省に相談し、要望してもらえたらよいと思う、とのご発言がありました。
- さらに、北京大興空港が9月にオープンすることから、中長期的には路線が増える可能性があるとの展望が示されました。
- 石井知事からは、日本は、2020年の訪日外国人の目標を4000万人としており、今後も東京オリンピック、パラリンピック等により急増が見込まれることから、一帯一路の理念に沿って日中交流の更なる深化を図るためにも、日中間の航空路線の充実が重要である。そのため、上海(浦東)空港から富山空港をはじめ我が国の地方空港への発着便数を増加できるように、制限の緩和について日中間の合意形成を図っていただくよう、既に日本の国土交通省航空局にも強く要請しているとお話ししました。
- 李健副局長からは、そういうことであればなるべく早く日本の国土交通省航空局と協議をしていきたいとお話いただきました。
- なお、今秋オープンする北京大興国際空港については、中長期には段階的に現行の北京の

空港での発着数を拡大していく可能性があるとのことであるが、その際には成田、羽田のみでなく富山空港のような地方空港への路線開設や増便についてご配慮をお願いしたいと要請しました。

○今後とも交渉の行方を注視し、富山ー上海便の拡充をはじめ富山空港発着の国際定期路線の充実に引き続き努力してまいります。



懇談の様子（石井知事と李副局長）



握手を交わされる様子

(2) 第2回一帯一路国際協力サミットフォーラムでの発表と李小林会長との個別会談

ア 日 時：平成31年4月25日（木）14：00～17：00

イ 場 所：北京国家会議センター

ウ 富山県側：富山県知事ほか

エ 相手方：李小林中国人民対外友好協会会長ほか約500名程度

オ 内 容：

○「第2回一帯一路国際協力サミットフォーラム」は、37か国の首脳や政府要人、国連事務総長など外国から5,000人近くが参加し、北京市内の北京国家会議センターにおいて4月25日（木）から27日（土）まで開催されました。

○フォーラム全体としては、①開幕式②元首級や国際機関のトップが参加するハイレベル会議（全体会議）など6つのパートに分かれています。25日（木）には、インフラ整備や貿易円滑化などのテーマ毎に分かれた12の「分科会」が開かれ、私は、その中の「地方協力」の分科会に出席して意見発表するよう求められました。

○「地方協力」の分科会は、約500人が参加し、欧米やアジアなどの自治体幹部ら約20人が発表しましたが、私は4番目に登壇し、富山県と中国との交流の歴史などを紹介するとともに、遼寧省などと長年続けている経済・文化・人的交流のほか、中国への富山県産米等の輸出、伝統工芸品の海外発信、富山湾の世界的ブランド化、天然の生け簀富山湾の魅力なども報告し、地方レベルでの交流発展を呼び掛けました。

○また、結びに、航空路線の拡充について提案しました。富山県の場合、国際定期路線は4路線ありますが、うち富山 - 大連便、富山 - 上海便は、それぞれ週3便、週2便の直行便を運航しています。特に、上海便は、利用率が8割近くと大変好調で、航空会社は「富山 - 上海便」の増便を希望していますが、そのためには、日中政府間で決められた現行の制限を緩和する必要があります。

来年には東京オリンピック・パラリンピックも予定されており、一帯一路の理念・プランを進めていくためにも、また、地方交流をさらに推進して深化させるためにも、日中間の航空路線の充実は極めて重要です。そのため、上海空港や北京大興国際空港から、富山空港をはじめ日本の地方空港への発着便数を増加できるように、日中間の合意形成が早期になされるようお願いしました。

本県としては、今後、富山県と中国との交流拡大に一層尽力し、さらには一帯一路の進展に参加・協力してまいります。

○その後、第一部終了後の休憩時には、昨年5月に札幌で開催された「日中知事省長フォーラム」でお会いした中国人民対外友好協会の李小林会長と懇談する機会をいただきました。李小林会長からは、「スピーチが具体的で良かった」というご評価をいただきましたが、私からは、富山県としては、引き続き日中の地域間交流を大切にしていきたいこと、そのためにも上海や北京の空港と富山空港など日本の地方空港を結ぶ航空路線の拡充についてご支援・ご協力を賜りたいことなどをお願いしました。



意見発表の様子①



意見発表の様子②



意見発表の様子③



李小林中国人民对外友好協会会長との懇談

(3) 富山ファン倶楽部及び北京富山県人会との夕食会

ア 日 時：平成31年4月25日(木) 19:30~21:10

イ 場 所：ホテルニューオータニ長富宮「水連の間」

ウ 富山県側：石井知事、蔵堀総合政策局長ほか10名

エ 相手方：趙建国富山ファン倶楽部代表世話人、陶景岩富山ファン倶楽部扱顧問、
茶山秀一北京富山県人会長、塩谷倫子北京富山県人会事務局長ほか6名

オ 主な内容：

- 冒頭、石井知事から、今回の北京訪問の経緯についてご説明することともに、①二階俊博自由民主党幹事長とともに、習近平国家主席との会談の場に同席させていただき、その上会談の最後に習近平国家主席と握手を交わす機会をいただき、誠に光栄に思っていること、②北陸新幹線の開業を契機に、観光客の増加、企業立地の進展のみでなく、Uターン率がさらに高まり沖縄に次いで全国第2位となっていること、富山県への移住者も着実に増えており、10年前はせいぜい年間200人位だった移住者が年々増加し、昨年度は729人となったこと、かつ、富山県の特徴はその中でも20代、30代が7割を占めていること、③移住先として富山県を選んだ理由を伺うと、(a) しっかりとした働き口が県内で見つけやすかったこと、(b) 子育て環境が良いこと、(c) 教育水準が高いこと、などの要因をあげる方が多く、色々課題はあるものの富山県は今や若い世代の人達にここで住みたい、働きたいとして選んでいただける県の一つになっていること、などをお話ししました。
- 続いて、趙建国富山ファン倶楽部代表世話人からご挨拶があり、今回の夕食会に招待いただいた謝意が述べられるとともに、①富山県と遼寧省の友好県省を締結して以来、人材育成などの面において、大変素晴らしい成果を上げており、富山県で研修を行った多くの遼寧省の人材がいまや組織や各界の幹部に成長していること、②富山ファン倶楽部の会員数が現在は約400名近くにまで達しており、大変喜ばしいこと、③富山ファン倶楽部は日中自治体間交流のモデルであり、会員も富山を第2のふるさとであると認識しており、今後とも富山県を大切にしたいこと、④今年が友好県省35周年でもあり、会員に呼び掛けて北陸新幹線開業後の新しい富山に「富山 - 大連便」を活用して里帰りする事業を展開したいと考えたいなどの挨拶がありました。
- また、茶山秀一北京富山県人会長からは、中国の最大紙である人民日報に富山県の富岩運河環水公園の「世界でもっとも美しいスターバックス」が取り上げられており、中国でも北陸新幹線開業後の富山県の勢いの良さを感じており、県出身者として大変喜ばしいこと、今度とも、ますます富山県が元気になることを願っている旨の乾杯の挨拶がありました。
- 参加された皆さんから1人ずつ自己紹介、近況報告など短いスピーチをお願いしましたが、ふるさと富山を想う気持の表明や明るい話題も多く、盛り上がりました。
- 最後に、陶景岩富山ファン倶楽部顧問より、石井知事をはじめ北京富山県人会の方々を楽ししいひとときを過ごしたことに対する謝意が述べられるとともに、人と人との交流が大事であり、これからも富山ファン倶楽部の会員として、富山県と遼寧省、富山県と中国との友好の架け橋になれるよう努力して行きたい旨の挨拶がなされ、閉会となりました。



石井知事 挨拶



趙建国富山ファン倶楽部
代表世話人 挨拶



茶山秀一北京富山県人会長
乾杯挨拶



参加者との記念撮影